

選定された種・群落のなかで代表的なものの解説 昆虫類 (1/2)

チョウ目

シジミチョウ科

ルーミスシジミ

Panchala ganesa loomisi

奈良県 絶滅寸前種

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

照葉樹林に生息するシジミチョウで、イチイガシ等を食樹としている。かつて春日山原始林一帯に分布していたが、1990年代に目撃情報はあるものの発表はされておらず、1950年代末以降記録が途絶え、危機的状況にあるといえる。伊勢湾台風による被害や農薬散布が原因との意見もあるが、確実な証拠がなく原因は不明である。最近、県南部において生息が確認されたが、決して生息数が多いわけではないことから、照葉樹林の減少などに伴い絶滅する危険性が含まれている。

国指定特別天然記念物：ルーミスシジミ棲息地（奈良市春日野町・川上町）
三重県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
和歌山県RDB：学術的重要



写真提供：伊藤ふくお

トンボ目

トンボ科

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea

奈良県 絶滅危惧種

環境省 ー

日本では最も小型のトンボで、腹長はオスが11～14mm、メスが10～12mmである。オス成虫は体全体が朱色をしており、メス成虫は茶色と黄色の縞模様を呈している。湿地や休耕田に生息するが、産地が限定され、個体数が少ない。湿地の乾燥化や遷移、休耕田の荒廃による好適な生息場所の減少に伴って、生息地自体もかなり減少傾向にある。

京都府RDB：準絶滅危惧種
大阪府RDB：準絶滅危惧
和歌山県RDB：準絶滅危惧



写真提供：伊藤ふくお

カメムシ目

コオイムシ科

タガメ

Lethocerus deyrollei

奈良県 絶滅危惧種

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

水田やため池、ゆるやかな流れの河川などに生息する。日本の水生カメムシ類の中では最大級で、体長は48～65mm程度、メスの方が大きい。オタマジャクシや魚などを捕獲するために、前脚が強大で鋭い鎌状になっている。メスが水面に突き出した杭や抽水植物の茎などに産卵し、オスが卵塊を孵化まで保護する。圃場整備や水田の乾田化などの影響で幼虫の生息場所が減少したことにより、分布域が局限され、生息個体数も少ない。

三重県RDB：準絶滅危惧
滋賀県RDB：絶滅危機増大種
京都府RDB：絶滅危惧種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅱ類
和歌山県RDB：絶滅危惧Ⅰ類



写真提供：伊藤ふくお

チョウ目

アゲハチョウ科

ギフチョウ

Luehdorfia japonica

奈良県 絶滅危惧種

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

成虫は春先の短い期間に現れ“春の女神”とも称される。幼虫はカンアオイ類を食草として育ち、初夏に蛹になったあと、そのまま翌年の春を待つ。薪炭林として利用・維持されてきた里山が、管理放棄によって、食草であるカンアオイ類の生育に大きく影響を与えている。このため、分布が局地的で、最近ではみられなくなった地域がある。

三重県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
滋賀県RDB：希少種
京都府RDB：準絶滅危惧種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅱ類
和歌山県RDB：絶滅



写真提供：伊藤ふくお

選定された種・群落のなかで代表的なものの解説 昆虫類 (2/2)

カメムシ目 セミ科

ヒメハルゼミ

Euterpnosia chibensis chibensis

奈良県 希少種

環境省 ー

自然度の高い照葉樹林に限って生息する南方系のセミで、6月下旬から8月上旬まで発生し、午後から夕方にかけて「ウィーン、ウィーン」と間欠的に森をゆるがすような大合唱をする。全国的にみても生息地は局限され、本県では春日山原始林、与喜山(桜井市)、十津川村の照葉樹林でのみ確認されており、分布地が限られている。

滋賀県RDB：希少種



写真提供：伊藤ふくお

コウチュウ目 テントウムシ科

イセテントウ

Arawana isensis

奈良県 希少種

環境省 ー

イチイガシの林のみで発見されているテントウムシである。体長約4mm、ほぼ全体が黄褐色で無紋、背面が強く盛り上がり特徴的な形態をしている。全国的に産地がかなり限られており、本県も含めて4県のみ確認されており、県内でも現在のところ産地は1地域のみである。個体数もかなり少ないが、生息はほぼ毎年確認できている。

三重県RDB：情報不足



写真提供：伊藤ふくお

チョウ目 タテハチョウ科

オオムラサキ

Sasakia charonda charonda

奈良県 希少種

環境省 準絶滅危惧

雑木林でみかける大型のタテハチョウで、日本昆虫学会の決議により日本の国蝶とされている。成虫は7～8月に発生し、クヌギなどの樹液を吸ってエサにしている。幼虫はエノキの葉を食べる。オスの羽は、表面が美しい紫色で、白・黄色・赤色の斑点があり、メスの羽は、黒褐色に黄色の斑点がある。翅を広げた大きさは10cm前後である。雑木林の衰退とともに、少しずつ生息地が減少している。

三重県RDB：準絶滅危惧
滋賀県RDB：絶滅危機増大種
京都府RDB：準絶滅危惧種
大阪府RDB：準絶滅危惧
和歌山県RDB：準絶滅危惧



写真提供：伊藤ふくお

コウチュウ目 タマムシ科

ヤマトタマムシ

Chrysochroa fulgidissima fulgidissima

奈良県 郷土種

環境省 ー

主に雑木林に生息する大型のタマムシで、真夏に飛んでいるところがよく見られる。きらびやかな金属光沢は、鳥を警戒させ、身を守る効果があると言われる。幼虫は立ち枯れた木などの中で、それを食べながら育つ。日本に生息するタマムシのなかで最も美しい種といわれ、本種の上翅を用いて作られた法隆寺の「玉虫厨子」は、世界的にも有名で国宝に指定されている。

滋賀県RDB：要注目種



写真提供：伊藤ふくお